



COMPANY'S
CHALLENGE

NO.84



音楽教室のノウハウを生かした 新たな介護予防事業を展開

株式会社フカノ楽器店 代表取締役社長 藤田 和博氏

60年以上続く “まち”の音楽拠点

子どもの情操教育として、あるいは大人のお稽古事として、古くからポピュラーな音楽教室。福岡市南区井尻の(株)フカノ楽器店も、YAMAHA特約店としてピアノやエレクトーンを中心とした音楽教室を展開しています。

フカノ楽器店は1959年に“まちのレコード屋さん”として創業。現在では福岡県内に7カ所の拠点を設置して音楽教室を開いているほか、今年で23回目を迎えるドルチェピアノコンクールを主催するなど地域の音楽文化の普及に貢献しています。代表取締役社長の藤田和博さんは「楽器が上達するということはもちろん大事なことです、YAMAHAの理念でもある“音

楽を通じた情操教育”に力を入れていますが」と話します。

ところが、少子高齢化やコロナ禍による外出規制などの影響によって売上は減少傾向に。音楽教室の生徒が減っていく中、藤田さんの息子である健太郎さんが入社し、インターネットを活用した募集施策を実施。減少傾向にあった生徒数は底を打ち、現在では約1,000名にまで回復しました。

また一方で、鍵盤楽器の販売にも携わっている同社。「1980年代ごろには日本全国で年間30万台売れていたピアノも、いまでは1万台を切っています。加えて性能が良く場所を選ばない電子ピアノが販売の中心となっている状況ですが、YAMAHAのピアノは品質が高く中古のニーズがあります。そこで古いピアノ

を整備した再販にも注力しています」と藤田さん。

音楽教室のノウハウをベースに 介護予防事業に進出

少子高齢化への対応を視野に入れ、2008年ごろから高齢者の介護予防事業にも着手したフカノ楽器店。「当時はまだ少子化の影響はなかったのですが、将来的に音楽教室の運営が厳しい状態に陥るという予測はありました」と危機感を抱いていた藤田さん。そこで、糟屋郡篠栗町役場とともに介護予防事業の一環として、同社の強みである音楽の力を活かした音楽レクリエーションをスタートさせました。

音楽の要素を取り入れた独自のプログラムには、メロディーに合わせた手遊びや指

【プロフィール】

福岡県出身。家電メーカーの設計などを経て、叔父が経営するフカノ楽器店に入社。2017年に代表取締役社長に就任。音楽を活用した介護事業を立ち上げるなど、精神的に事業を拡大している。



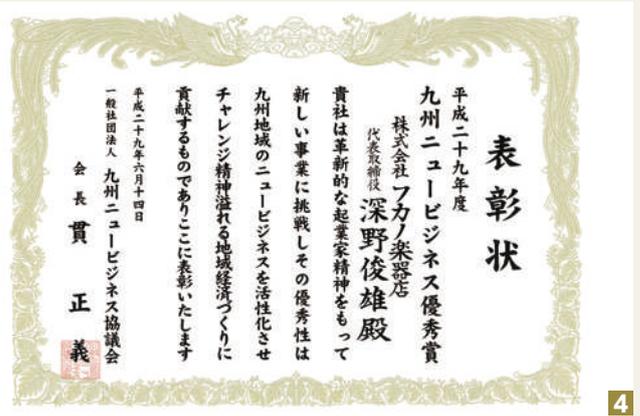
1



2



3



4

1 子どもの情操教育に良いという音楽教室では、楽器をうまく弾くのではなく音楽に触れ楽しむことが大事だそう

3 ミュージックフープを使って音楽に合わせて行う運動は、高齢者でも負担なく取り組むことができる

2 フカノ楽器店では定期的な音楽コンサートも開催している。発表の場があることで生徒のモチベーションもアップ

4 フカノ楽器店が取り組む音楽介護予防事業は、さまざまな団体から評価され、健康科学ビジネスベストセレクションズなどに選出

遊びなどベーシックなものから、歌や楽器の演奏など音楽に特化したプログラム等を組み込み、業界初の音楽介護予防事業として展開していきました。結果、篠栗町の介護認定率は大幅に改善したといえます。

「介護予防には、苦しくきつい運動というイメージがあるかと思いますが、音楽を交えたことで高齢者の皆さんにも興味を持ってもらうことができたのでしょうか。初めて介護予防教室に参加したという方が増えました。また、単に体を動かすだけではなく、若い頃の歌を歌うことで脳の活性化を図ることができます。音楽の要素を加えることで、無理なく・自然に・楽しく続けられる新しい介護予防の形ができたことが、介護認定率の改善にもつながったと考えています。それも音楽教室を通じて指導してきたノウハウがあったからこそ」と藤田さん。本事業を同社の新たな柱と位置づけ、プログラムの構成から専門講師を育成する講座まで、すべてを一から作り上げました。

また、プログラムでは自社オリジナルの楽器であるミュージックフープを使用しています。「これは健康楽器としてYAMAHAが開発したのですが、2012年に製造中止になりました。そこで特許

権、製造権を買い取り、自社商品として販売しています」。楽器演奏のように楽しみながら体を動かすことができるため、高齢者も積極的に参加するケースが増加。2019年には福岡県内の市町村を中心に佐賀県や熊本県で1,700回教室を開催し、年間延べ48,000人が参加するなど、元気な高齢者をより元気に、健康増進・健康寿命の延伸に貢献しています。

オンライン化によって 介護事業をさらに拡大

音楽を活用した介護予防事業拡大をめざすフカノ楽器店では、現在フランチャイズ化による全国展開と合わせてオンラインでの教室開催を検討しています。藤田さんは「行政と取り組む介護予防教室は、外出できるようなある程度健康な方が対象になります。今後はオンラインでレクリエーションを行うようにすることで、介護施設入居者など外出が困難な方向へも展開できるのではないかと期待しています。コロナ禍においては緊急事態宣言が出るたびに教室も中止になっていましたからね。オンラインを有効に活用しながら、この事業を広げていきたいですね」と意気

込みます。

また、プログラムの拡充にも取り組んでいます。これまでは元気な高齢者を対象とした構成でしたが、今後は要介護の一手前の高齢者を対象とした、より運動療法に重点を置いた新しいプログラムの開発を進めています。

「すでに、運動療法に重きを置いた介護予防事業に取り組む企業はたくさんあるので、同じやり方では新規参入しても負けてしまいます。私たちの強みでもある音楽を生かし、音楽の中にこれまで以上に運動を融合させた新規プログラムで勝負したいと思います」。60年以上にわたって音楽の楽しさを伝え続けてきたフカノ楽器店。今後は介護予防という領域で、音楽の新たな可能性を見出し続けていきます。

取材日：8月4日



株式会社フカノ楽器店

〒811-1302 福岡市南区井尻4-2-51
TEL.092-501-4056
<http://www.music-school.jp>